

八学大3競技出場

日本学生氷上競技選手権 市長訪ね活躍誓う

アイスホッケーとスピードスケート、フィギュアスケートの3競技で構成する八学大のスケート部が19日、八戸市の熊谷雄一市長を訪ね、大学生の頂点を決める日本学生氷上競技選手権での活躍を誓った。八学大が3競技でそろって同選手権に出場するのは初めて。

この日は、顧問兼部長の

バリー・グロスマン氏(58)と、アイスホッケーの北村隼大(22)11年11、スピード男子の富岡真望(21)13年11、同女子の上野恵理子(21)14年11の3主将と、フィギュアスケートの木村哲太選手(19)11年11が市庁を訪れた。

グロスマン氏は、昨年から三つの競技を一つの部に統合して、レクリエーションを通じて相互交流と強化を図ってきたと説明。熊谷市長は「それぞれにいい成績が残せることを期待している」とエールを送った。

取材に対し、八戸市出身の上野主将は「昨年より表彰台、入賞を狙えるメンバーがそろっている」とし、昨年4位だった学校対抗で3位以上を狙う」と強調。同市出身の木村選手は「予選は思うような結果ではなかったが、自分の全力を出して表彰台に上りたい」と力を込めた。

アイスホッケーは25日から青森県南地方で、スピードとフィギュアは来年1月4日から群馬県で、選手権が開幕する。(桑田友人)



日本学生氷上競技選手権での活躍を誓った八学大の選手ら11八戸市庁